

令和7年度使用中学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	山県教科用図書採択地区
-------	-------------

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	光村	本教科用図書では、各学年とも、本編の情報活用に係る単元「情報×SDGs」を設定し、教材を1つは掲載している。また、情報整理の方法として「情報整理のレッスン」、情報と情報の関係を捉える「思考のレッスン」を設定し、情報の扱い方と関連させた「書くこと」の活動に関する教材を掲載している。また、自分の考えが効果的に伝わるように、表現のしかたや論理の展開を工夫し、助言し合うことを目標として示し、問題解決的な学習を実施するための工夫を図っている。さらに、話し合いに関する単元の内容の扱いでは、多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を目指すよう示し、自分の考えを形成する活動の工夫を図っている。 以上の点が、光村図書の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考えます。
書写	光村	本教科用図書では、楷書と行書の使い分けについて、「①考えよう」→「②確かめよう」→「③生かそう」という学習過程が提示されている。また、友達と話し合う学習過程を設け、対話的な学びを通して学習を深め、場面に応じて書き分けるような構成となっており、「学びのカギ」では、楷書と行書を使い分ける際の観点を示している。 以上の点が、光村図書の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考えます。
社会 (地理的分野)	東書	本教科用図書では、巻頭ページに、「地理を学ぶ5つのミカタ」を設定し、「見方・考え方」として、「位置や分布」「人と自然のかかわり」「場所」「結び付き」「地域」を示し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫を図っている。また、調査の手順として「課題をとらえ、問いを立てよう」「地域を調査し、課題をとらえよう」「課題の要因や影響を考察しよう」「解決策を議論し、構想しよう」「地域のこれからの提案し、発信しよう」の構成になっており、主体的に学習に取り組む工夫が図られている。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考えます。
社会 (歴史的分野)	東書	本教科用図書では、単元の導入において、見開き2ページにわたり、二次元コード、小学校の社会で習った言葉、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表、キャラクターの問い等や、資料の読み取り及び話し合い活動を示し、主体的に学習に取り組む工夫が図られている。また、日本に影響を与えた文化交流に関するコラムを6点示し、国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫が図られている。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考えます。

社会 (公民的分野)	東書	本教科用図書では、最初の扉の1ページに単元の内容に関する3枚の写真を掲載し、キャラクターによる吹き出しで「どのように～のだろう」といった投げかけをしている。また、小学校の学習と関連させる工夫がある。単元末に「深めよう」を2ページ設け、「みんなチャレンジ」を通して、単元の内容をまとめながら多面的・多角的に考察できるようにしてあり、思考力、判断力、表現力等の育成の工夫が図られている。また、「探究課題」に対するまとめを行うようにしている。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考え。
地図	帝国	本教科用図書では、思考力、判断力、表現力等を育成するために、「地図で発見!」のコーナーを設け、社会科の学習を、地図をもとに確認したり深めたりする問いとして156問記載している。また、「資料」「世界」「日本」「統計」「さくいん」でインデックスを5つに分類し色分けしている。 以上の点が、帝国書院の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考え。
数学	学図	本教科用図書では、「今の自分を知ろう」で、SDGsに関連した課題を取り上げ、これまでに身に付けた数学の力を使って、自分たちに何ができるかを考察する活動が設定されている。また、章の前の「ふりかえり」で下学年の学習内容を示してあったり、各学習のはじめに、問題解決のための見通しをもたせている等、知識及び技能の習得のための工夫が図られている。 以上の点が、学校図書の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考え。
理科	啓林館	本教科用図書では、「計画」等で観察、実験を計画する視点を、「結果」「考察」等により分析し解釈する視点を示している。また、第1、2学年の巻末に、探究の成果の表現方法として、「発表の進め方」と「ポスターやスライド作成のポイント」を示している。「発表してみよう」として、発表する活動を設定し、思考力・判断力・表現力等の育成を図っている。また、教科書に掲載された実験に対応した「探Qシート」を付録として添付し、主体的に学習に取り組む工夫がされている。 以上の点が、啓林館の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考え。
音楽 (一般)	教芸	本教科用図書では、学習目標の下に音楽を形づくっている要素を例示するとともに、活動文や考えたいポイント、キャラクターの吹き出しの中に視点として示し、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫がされている。また、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わるための工夫として、音楽文化に関する学習についての記載では、背景に世界地図を掲載し、その上に各地の楽器の写真を楽器群別のマークを付けて掲載したり、考えたりしたいポイントが書かれている。 以上の点が、教育芸術社の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考え。

音楽 (器楽合奏)	教芸	本教科用図書では、知識及び技能の習得を図る工夫として、ギターにおける学習目標達成のための支援の具体例として姿勢とかまえ方について、正面からと側面からの写真を掲載し、説明している。さらに、その中で左手と右手の写真を掲載するとともに押さえ方について説明している。また、音楽的な見方・考え方を働かせる工夫として、「アンサンブルセミナー」を3カ所に掲載し、音楽的な見方考え方を働かせて考えたいポイントを示している。 以上の点が、教育芸術社の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。
美術	光村	本教科用図書では、表現と鑑賞の関連を図った学習活動の工夫を図るために、作家や生徒作品及び作者の言葉を掲載することで、様々な材料の特徴を生かした表現の工夫を知り、それらを活用した表現活動へ展開できるようにしている。また、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わるための工夫として、「デザインや工芸など」のはじめに特設ページを設け、生活の中の美術との関わりを具体的に示している。さらに、興味・関心を高めるための工夫として、生徒の作品や、生活や社会にある美術に関する写真を掲載するとともに、生徒の活動の様子を写真と学習活動の過程に分けて、写真や吹き出しで示したり、主題や表現の意図を作者の言葉で示したりしている。 以上の点が、光村図書の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。
保健体育	東書	本教科用図書では、「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「〇?」、「活用する」、「広げる」という流れで、1時間の学習の流れが提示されている。 また、「読み物」として、体育理論で2、保健分野で15の読み物資料が掲載されており、自己の課題の発見や、解決に向けた学習活動の設定や、興味・関心を高めるための工夫がされている。さらに、思考するための発問を設定するとともに、「活用する」→「広げる」と、学習したことを自分の生活にあてはめたり、調べたりする活動を設定し、思考力、判断力、表現力等の育成を促す工夫がされている。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。
技術・家庭 (技術分野)	東書	本教科用図書では、「技術の最適化」という項目では、これまでの学習を振り返り、自分の問題解決と社会における問題解決の共通点と違いについて考えることを促す記述や、生徒のつぶやき等を掲載し、知識及び技能の習得を図るための工夫がされている。また、「技術分野の学習を終えて」において、これまでの学習を振り返り、これから技術とどのように関わっていきたいか考えをまとめさせる記述を掲載するとともに、社会の中で技術に携わる人へのインタビュー等を掲載し、主体的に学習に取り組む工夫が図られている。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。

技術・家庭 (家庭分野)	東書	本教科用図書では、知識及び技能の習得を図る工夫として、「実習を楽しく安全に進めよう」を巻頭に掲載し、食物アレルギーや感染症予防にも気を付けて、安全に実習に取り組むためのポイントがまとめられている。編末の「学習のまとめ」では、知識及び技能を習得するための問いが掲載されている。さらに、「生活に生かそう」「まとめよう」で学習を振り返ったり、次の学習に生かしたりする活動を設定し、主体的に学習に取り組む工夫が図られている。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。
英語	東書	本教科用図書では、復習単元Unit 0を除く各単元末の「Unit Activity」の「STEP 3」に「Unit Question」を設定し、自分の考えを書くとともに、「CHECK」において、4段階の振り返りを設定している。また、「Stage Activity」に「CHECK」を設定し、4段階で振り返りを行うとともに、巻末口絵「CAN-DOリスト」で各Stageの学習について、領域ごとに4段階で振り返りを行うように設定され、主体的に学習に取り組む工夫がされている。そして、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫として、単元終末の言語活動である「Unit Activity」に向け、言語活動を設定している。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。
道徳	東書	本教科用図書では、道徳科の学び方等の示し方として、オリエンテーションのタイトルを「1年間で学ぶこと」とし、見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間で学ぶ内容項目を示す言葉と教材等を示し、3つの学習の流れ等「①気づく」「②考える」「③深める・広げる」を、イラストや吹き出しとともに示している。また、主体的に学習に取り組む工夫を図るため、「問題解決的な学習を取り入れた工夫」として「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例を示している。 以上の点が、東京書籍の特筆すべき事項であり、指導の在り方、児童の実態等の観点から、本採択地区で使用する教科用図書として適当であると考ええる。